

Case13

株式会社 ダイテック



代表者メッセージ



代表取締役社長
大山 和一

パッケージづくりの高度な要求にこたえる 優れたものづくりで生産性の向上へ

みなさんが日ごろスーパーやコンビニで目にする、あらゆる包装パッケージの多くは、「抜型」を使って、その形に切り抜かれています。弊社は創業から32年、個人で始めた時期も含めると約40年間、この「抜型」を製造しています。このような抜型製造会社は、全国で約300社、四国では5社あり、弊社の取引先は、四国内の大手メーカーが約95%を占めています。特に高い評価を得ているのが化粧箱の分野です。常に精度と正確さを要求される厳しい世界ですが、従業員一同、ものづくりの楽しさを忘れず、日々努力しています。

企業情報

所在地	香川県東かがわ市馬篠411番地1
TEL	0879-25-9313
設立	1977年9月
代表者	大山 和一
業種	金属製品製造業
従業員数	5名
事業内容	紙器、ダンボール、各種抜型、ロータリー用抜型、自動落丁型、レーザー加工、面版加工、サンプル加工、真空成型抜型

事業計画名

自動面版機導入による作業工程の 自動化および高精度化の実現

当社は、パッケージ関係・食品トレーなどあらゆる業種の抜型を作成している。特にパッケージの分野では、消費者が使いやすく、折りやすくするための様々な工夫が施されるため、対応できる技術力が必要だ。そこで自動面版機を導入し、作業工程を自動化するだけでなく、短納期化および高精度の面版を提供する。

取り組みの経緯



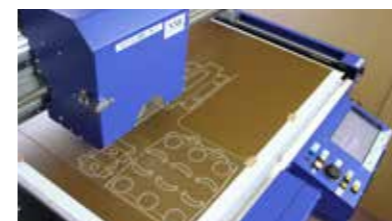
都市部の抜型会社に劣らない設備を整えてきたが、近年、顧客である各メーカーからは、商品パッケージの美しさはもちろん、組み立てやすさなど、高い品質や精度が求められる。消費者の好みも、デザインだけでなく、使いやすさ、安全性、解体の簡単さ、簡易包装、強度…と多様化してきた。そこで、自動面版機を導入し、精度の高い「面版」をつくることに、納期の短期化も図ることとした。

実施内容

図面を専用CADソフトで作成し、自動的に「面版」を製造する設備を導入した。従来の設備では、ドリルの太さや高さを毎回手で調整し、従業員が付きっきりで作業していた。この自動面版機は、タッチパネルに入力するだけで自動的にドリルを持ち替える。後は材料を置くだけで製造がスタートする。四国の抜型会社では初導入となり、競合会社との差別化をアピールし、顧客開拓も期待できる。



成果



当社の強みである経験と技術に、自動面版機の精度を加えて、性能面、生産面、価格面で、より優れたものづくりを実現できた。その精度は、測定装置で数値化でき、顧客に提出することで信頼を得られた。作業の所要時間は大幅に削減し、仕事の効率が上がり、短納期化、低価格化につながった。また、削りかすがほとんど出ないバキューム機能を搭載しており、職場環境の改善にもつながった。

みなさんがよく目にしている あらゆる商品の箱をつくる 「抜型」やセットになる「面版」を 製作しています

お菓子などの箱は、この写真のような「抜型」を使って、展開図の形に打ち抜かれます。その時セットで使うのが「面版」で、切り抜くと同時に、組み立てる時の折り目となる凸凹をつくります。この凸凹があるから、箱をキレイかつ簡単に組み立てられるんです。機会があれば、ぜひチェックしてみてください。

